

東京 IPO 特別コラム

2017年1月26日 Vol.65

祝！！NYダウ2万ドル台乗せ、そして日本株も・・・

トランプ大統領の就任式が終わって5日間が経過した昨日NYダウがついに2万ドル台に乗せてきました。アメリカファーストの掛け声で登場したトランプ大統領の政策への期待が一層高まり、株式相場はふっきたような上昇となってきました。積極的な社会インフラ投資や減税への期待が底流にあるとは言え、オバマ大統領時代とはまったく異なる政策への期待と不安が交錯しながらの株価上昇。これに対して日本株を象徴する日経平均やTOPIXもようやく先の高値を意識した動きに変わってきたようです。日経平均は為替に影響を受け年明けは18日に1万8600円台の安値をつけたのですが、この間はJASDAQやマザーズなど中小型株指数が堅調で日本株の本質も堅調な推移を辿ってきた点に注目しないとなりません。某有名エコノミストは日経平均の2万円台乗せはないと断言しましたが、ムード的には日経平均2万円台乗せに向けた明るい相場展開になってきた点は否定できません。

こうした相場展開は多くの投資家にとってもメリットをもたらしているかと思われまます。アメリカが元気になれば日本も良くなる筈だとは言え、トランプ大統領の政策が不透明な中、ややおっかなびっくりといった展開ではありますが投資家の懐事情は明らかに良くなってきていますので、当面の展開は明るさを一層増すだろうという見方ができます。折しも第3四半期決算の発表シーズンとなります。為替が期初に比べ円安に振れたことも幸いして今期の業績は上方修正されるとの期待が高まるとともに日経平均などに代表される株価指数の上昇がなおも続くという強気の見方をしておきたいと思えます。とりわけ直近の値動きの中では配当利回りの高い安定型銘柄への関心が高まっているように思われます。

昨年のIPO銘柄の中では中本パックス(7811・東証2部)が3月の公開価格1470円から1391円の安値を経て直近は3410円(安値比2.45倍)と言う高値をつけています。これは上場記念配を含め年90円配当の実施が背景にあると見られます。個人投資家の皆さんはIPO後の企業がどのような配当を実施し優待制度をどう実行しようとしているかとても関心を持って見ているためではないでしょうか。これに続いて直近では化学セクターのKHネオケム(4189・東証1部)が昨年10月の公開価格1380円に対して1163円という安値をつけた後、出直り歩調。年46.5円配当(配当性向は約30%)を実施するとしていて既に前12月期は終わっていますが、今期も同様の配当実施が期待されますので、業績動向とともに株価面でも関心を高める可能性があると思われます。このような配当利回り重視の事例では一昨年に上場した日本郵政(6178・東証1部)が銀行株と同様の評価を受け、高配当利回りながらもなかなか評価が高まりませんが、早くも政府保有株の第二次放出の話が出てきています。50円配当が今後の業績見通しとともに長期にわたって維持できる可能性があるのかポイントになります。

東京 IPO 特別コラム

さて、2016 年も IPO 銘柄の中から活躍する銘柄が数多く輩出されましたが、2017 年はどうなりますでしょうか。2017 年の IPO は明日、1 月 27 日のシャノン（3976・マザーズ）からいよいよスタートします。2 月は既に 5 社が IPO を予定しており、2 月までの IPO 社数が 6 社を数えるなど例年以上の賑やかさとなっています。また、3 月はまた数多くの IPO 銘柄が登場するものと見られます。トランプ相場で株式市場が活気を帯びてきた中での IPO 市場がどのような展開を見せるか皆様とともに大いに注目したいと思います。

（東京 IPO コラムニスト 松尾範久）